

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1（産官学連携事業）
取組事業概要	産官学連携事業を推進するために、プラットフォーム参加校における研究課題の共有及び研究施設設備に関するネットワーク網を整備し、更に産業界・自治体への人的及び設備的なネットワークを拡大することにより、プラットフォーム参加校が持つ研究ノウハウや施設設備を活用した受託研究、地域課題解決型の産官学共同研究を実施する。
活動指標	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。
対応 SDGs 番号	9
取組事業 No.	A-1-1 産官学共同事業推進助成
事業概要	WG-A の達成目標である、びわ湖東北部地域での新しい事業化または商品化を 2023 年度までに 3 件以上達成できた。これは WG-A として大きな成果であり、びわ湖東北部地域の産業振興および産業創出の実現に寄与している。 事業化・商品化を目指す本協議会加盟機関が関わる共同事業・共同研究グループに対して募集と審査を実施し、資金的援助およびプラットフォーム加盟機関による人的・物質的援助を提供する。 加えて、事業（商品）の安定化、拡販や拡大などを目的として、これまでに実現した事業化または商品化したグループに対しても、持続可能性を高められるよう、同様に支援を提供する
事業計画	・プラットフォーム連携機関への募集と選定（2024 年 7 月末） ・採択グループへの助成開始（2024 年 8 月） ・報告書の作成（2025 年 3 月）

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1-① 学生就職活動・企業採用活動支援事業
事業概要	学生の採用活動においてインターンシップの重要性が高くなる一方で、インターンシップ受入に係る企業の負担が大きく、地域内の企業で受け入れ態勢が整っていないことに加え、学生の地域内企業の認知度が低いことが課題となっている。 本事業において、学生と企業の接点を創出するとともに、企業の採用力強化を促す取組を、湖北地域雇用対策協議会や長浜市・米原市と共同により、実施する。 就職活動に臨む学生に対しては、ビジネスマナーをはじめ、企業訪問やワークショップを通じた業界研究や自己分析など、就活の基礎スキルの習得を支援するとともに、企業訪問を通じて地域内企業と学生の接点を創出し、湖北地域への企業への興味関心を促す。 地域内企業に対しては、企業訪問での学生受入を通じて、インターンシップの重要性の認識を高めるとともに、将来的な実施に向けた受入体制の検討に繋げる。 また、参加学生から、企業訪問時における PR をはじめ、企業の採用活動に対する意見をフィードバックすることで、企業の採用力強化に繋げていく。
事業計画	- 開催予定時期 令和 6 年 8 月～9 月 - 参加対象 大学生等 1 年生以上 - 開催規模 学生：25 人 (8～9 人グループ、3 グループ) 企業数：9 社 期間：合計 3～5 日間程度 (セミナー・ワークショップ 1～2 日間、企業訪問 2～3 日間) - スケジュール (目安) 6～7 月 参加学生の募集 参加企業の募集 8～9 月 セミナー、企業訪問 (こほくインターンキャンプ) の開催

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1-② 大学と企業のネットワークの強化 (情報交換会)
事業概要	びわ湖東北部地域内の企業が今後の採用活動の強化を図ることを目的として、大学生の最新の就職活動状況を把握するための情報交換の場を提供する。 ・大学就職支援担当者と企業採用担当者の情報交換会を開催する。
事業計画	・開催予定時期 令和 6 年 10 月開催 ・参加対象 地域内企業 20 社程度 ・スケジュール (目安) 8 月 東北部地域の大学との開催日の調整および企業募集 10 月 開催

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1-③ 学生と企業のマッチング事業 (就職情報等発信)
事業概要	びわ湖東北部地域内企業の発展と優秀な人材の確保を支援するため、同地域内の企業情報や採用情報等の情報発信を行い、学生や社会人、求職者等人材と企業とのマッチング機会の充実を図る。 ・学生と企業をマッチングするプラットフォームとなるウェブサイトの充実を図り、びわ湖東北部地域内企業の採用情報およびインターンシップ情報を掲載する。
事業計画	・実施予定時期 令和 6 年 6 月から令和 7 年 3 月 ・スケジュール (目安) 7 月 情報収集、ウェブサイトの改良 8 月～ 企業の採用情報等の掲載を随時実施

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	・産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 ・就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-1-④ 就職フェア【ローカルジョブコレクション】
事業概要	学生がびわ湖東北部地域の企業と接点を持ち、その企業の魅力を知り、就職意欲を高めるとともに、学生の就職と地域内企業の採用充足率向上を目指して、学生と企業とのマッチングをはかるための告知としたい。 今回は、「ローカルジョブコレクション」の統一名称として、湖北（長浜・米原）・彦根の開催をPRする。 ローカルジョブコレクション in 湖北 ローカルジョブコレクション in 彦根
事業計画	実施 期間 : 2025 年 2 月～3 月 会 場 : 湖北会場（長浜バイオ大学予定） 彦根会場（マリアージュ彦根予定） 対象求職者 : 2026 年 3 月卒業予定の学生、卒業後 3 年以内の求職者 対象企業 : びわ湖東北部地域に就業場所を有する企業 11 月 参加企業募集 1 月 参加学生募集 2 月 13 日 ローカルジョブコレクション in 彦根開催予定 3 月 ローカルジョブコレクション in 湖北開催予定

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2-① 留学生・キャリアガイダンス
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍している、日本企業への就職を目指す留学生等を対象とした就職ガイダンスを実施する。ガイダンスは下記のとおり予定している。(対面とオンライン併用での開催を予定) ① 学部 1 年生の留学生対象ガイダンス - 日本で働くための就職活動について - 就活と在留手続きに関する書類作成の方法について - 留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談について - 企業採用担当者から外国人に求める職種・採用ポイントについて - 留学生、卒業生へのインタビュー ② びわ湖東北部地域連携協議会参加大学に在籍の留学生対象ガイダンス - 日本で働くための就職活動について - 就活と在留手続きに関する書類作成の方法について - 留学生及び卒業生によるインターンシップ、就職活動体験談について - 企業採用担当者から外国人に求める職種・採用ポイントについて - 留学生、卒業生へのインタビュー
事業計画	① 5 月 準備のための打ち合わせ開始 6 月 講師依頼、協力企業等依頼 7 月 ガイダンス実施 ② 10 月 準備のための打ち合わせ開始 11 月 講師依頼、協力企業等依頼 12 月 ガイダンス実施

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 2 (インターンシップ・採用活動支援事業)
取組事業概要	大学生の意識調査・就活ツール等の情報交換会や研究会を実施し、地域内企業に対する新卒採用支援の産官学連携を強化すると共に、産官学共同研究の成果や地元産業について、プラットフォーム参加校在学生へ情報を発信し、地域内企業へのインターンシップ及び企業紹介を行う。
活動指標	インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。
対応 SDGs 番号	8
取組事業 No.	A-2-2-② パネルディスカッション&合同業界説明会
事業概要	○第 1 部パネルディスカッション、第 2 部合同業界説明会 - 目 的：大学生がびわ湖東北部地域の企業を知り、様々な業種について理解を深めるとともに、滋賀の魅力に気づき、自己の職業適性や将来を考える機会とする。自らが働くことを具現化し職業意識の育成を図る。 ○第 1 部：パネルディスカッション - テーマ：(仮) 滋賀で働く魅力 - 内 容：地元で就職した若手の社会人に地元で働くことのメリット・デメリットについてディスカッションを行ってもらい、自己を見つめ将来設計について考える。 ○第 2 部：合同業界説明会 - 実施方法：オンライン - 企業数：10 社程度 (彦根・米原・長浜の企業へ依頼)
事業計画	- 開催日時：2024 年 12 月 - 対象学生：びわ湖東北部地域連携協議会加盟大学・短期大学、滋賀県内大学・短期大学、京都府の大学・短期大学の学生 - 運営業者：株式会社いろあわせ - 計 画：6 月 事業計画に関する確認 9 月 打ち合わせ 10 月 チラシ作成・広報 12 月 オンライン合同業界説明会実施

WG 名称	A. 産業振興に向けた産官学連携事業	
課題	びわ湖東北部地域における産業振興・産業創出の実現	
達成目標	- 産官学連携研究をきっかけとした、3 件以上の事業化または商品化 - 就職支援事業及びインターンシップ事業に参加した企業の採用充足率を 2019 年度比で 10%以上改善する。(2023 年度評価)	
取組事業名	取組 3 (UIJ ターン推進事業)	
取組事業概要	産官学共同研究の成果や地元産業について、地方雇用創生事業と連携したうえで、プラットフォーム参加校・産業界・自治体の情報網を整備し、自治体が行う UIJ ターン推奨事業の事業活性化をはかることにより滋賀県内企業への就職を支援する。	
活動指標	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	
対応 SDGs 番号	8	
取組事業 No.	A-3-1 地域の社会課題を解決する起業家創出支援事業	
事業概要	東北部地域が抱える社会課題の解決を目指す起業家の創出・育成、起業・創業に対する機運醸成を図ることで、東北部地域による雇用の促進を目指す。具体的な事業としては、専門家による支援と地域活性化に繋げるワークショップを実施する。 本事業は、米原 SOHO において起業・創業支援を実施するインキュベーションマネージャー（産業支援プラザ）を中心に実施する。 （目標：新規起業家数 2 者） 【事業内容】 ① 専門家による個別面談、事業支援 ② 地域の課題解決を目指した事業プランを作成するためのワークショップ	
事業計画	5 月 事業全体の実施計画・打ち合わせ ワークショッププログラムの検討 6 月 各大学・市町などを通じて相談者・参加者の募集 7 月～随時 個別相談（資金・知財・宣伝・雇用など） 専門家派遣による事業支援 8 月～ ワorkshop実施 2 月 成果発表	

2024 年度事業計画（WG-B）

【取組 1】（生涯学習拠点整備事業）

【B-1-①】教養コース 市民教養講座（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-① びわ湖東北部地域生涯学習講座(教養コース) ①市民教養講座
事業概要	地域住民向けの公開講座を継続して開催する。5 大学・短期大学の知的資源を活用し、多様なテーマにて講座を開講することで、地域住民の学びのきっかけづくりや知的好奇心を満たすことを目指す。 原則会場型（対面）にて講座を開講する。講座は同時収録し、後日動画（オンデマンド）配信を行う。各大学・短期大学 2 名の教員が講師となり、合計 10 講座を開講する。
事業計画	[講座] 質疑応答を含め 90 分程度 [時期] 7 月下旬から 10 月上旬までの間 [講師] 長浜バイオ大学 2 名、滋賀文教短期大学 2 名、滋賀大学 2 名、滋賀県立大学 2 名、聖泉大学 2 名 [会場] 協議会に参画する県または市、大学施設 [予約] 会場型：事前申込制（講座開講 10 日前まで） 動画配信：随時申込 [その他] 講座会場および日程について、都合により調整させていただく場合があります。

【B-1-②】 専門コース 子育て応援講座（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。(2023 年度評価)
取組事業名	取組 1（生涯学習拠点整備事業）
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	3, 4
取組事業 No.	B-1-② びわ湖東北部地域生涯学習講座(専門コース) ②子育て応援講座
事業概要	近年の少子化や核家族化により、近隣のコミュニティのつながりが希薄となり、母親の孤立化や、子どもに接した経験が少ないまま親になることによる育児不安など、多くの育児に関する問題が取りざたされている。また、母子の健康を脅かす児童虐待や産後うつが社会問題となっているため、より多くの地域住民に母子を取り巻く現状を知ってもらい、妊婦や育児期の母子の孤立を防止する 2 講座（オレンジリボン運動、パパママクラス）を対面にて実施する。 さらに今年度は、プレコンセプションケアの視点から、男女の健康を増進し、より健全な妊娠・出産のチャンスを増やし、次世代の子供たちをより健康にできるような意識作りとなるような 2 講座を開催する。1 講座は上記のオレンジリボン運動と合わせて HPV（子宮頸部癌ウイルス）感染予防に関する啓発活動を行う。さらに、月経や性に関する正確な情報を、助産師資格を有した大学教員 2 名が提供し、参加者が健康的な生活を送るために性や月経に関するトピックスについて、性差なく、あらゆる人が互いの経験や視点を尊重し理解を深める講座（3 回）を実施する。 [事業内容] 1. オレンジリボン運動（別科助産・助産学生担当） ・ 多賀大社（多賀町）の腹帯祈願の日（5 月 28 日（日）戌の日）とコラボし、児童虐待防止を呼びかける企画を展開する ・ 参加者（腹帯の安産祈願に来場した妊婦およびその家族） 2. HPV 予防啓発活動（別科助産教員担当） ・ オレンジリボン運動の会場（多賀大社）にて HPV ワクチン接種リーフレットの配布 ・ HPV ワクチン接種により子宮頸がん発症予防につながることを多様な年

	代・性別の多賀大社参拝者にアピールし理解を促す 3. 【Next Step: 未来を拓く、月経と性についてのリアルトーク】（母性看護学領域教員担当）（7～10月に3回実施） ・月経困難症、プレコンセプションケアについて 30分程度 ・アイスブレイクゲーム：リアルトークするまでにリラックスできる空間づくり・マインドフルネス（15分） ・月経と性についてのリアルトーク（1時間程度） 4. 子育て応援講座 ①助産師学生によるパパママクラス（別科助産・助産学生担当）（8月） ・妊娠期の過ごし方、出産の流れや呼吸法、沐浴や抱っこの仕方など ・参加者については定員（10組）を設け予約制で実施する。 ②ベビーママヨガ教室（別科助産担当）（11月） ・乳児とその母親を対象としたヨガ教室を開催し ・乳児と母親のスキンシップの促進や母親のリフレッシュを目的する ・参加者は定員（10組）を設け予約制で実施する。 [参加者のリクルート方法] 《別科助産・助産師学生担当事業》近隣産科施設、子育て支援拠点、市町保健センターにチラシの配布を依頼、地域広報誌などへの掲載も依頼する 《母性看護学領域担当事業》 Google フォームにて前日締め切り、動画配信：随時申込
事業計画	《別科助産・助産師学生担当事業》 4月 1. オレンジリボン運動、2. HPV 予防啓発活動 講座企画・媒体作成 広報活動実施 5月 1. オレンジリボン運動実施、2. HPV 予防啓発活動（6月15日、多賀大社）アンケート実施 3-①パパママ講座 講座企画・広報活動（チラシ作成・配布） 6月 3-①パパママ教室 講座企画、動画作成・広報活動 （チラシ作成・配布） 7月 3-①パパママ教室 広報活動、講座企画・広報活動 （チラシ作成・配布） 8月 3-①パパママ講座開催（8月31日：聖泉大学） アンケート実施

	9 月 まとめ（前半） 1. オレンジリボン学生の学びまとめ、評価 1. HPV 予防啓発活動まとめ、評価 3-①パパママ講座アンケートまとめ、評価 9 月 3-②グランママヨガ教室 講座企画・広報活動 11 月 3-②グランママヨガ教室開 アンケート実施 3-②グランママヨガ教室アンケートまとめ、評価 3 月 まとめ（全体） 《母性看護学領域担当事業》 5 月 各機関へ依頼文発送 6 月初旬 講座内容の決定 6 月下旬 チラシ作成・依頼状発送 7 月中旬～10 月下旬 イベントの実施（3 回） 次年度以降も継続的に実施する。
--	--

【B-1-③】 専門コース 次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト（長浜市）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1(生涯学習拠点整備事業)
取組事業概要	幼児から高齢者まで各世代のニーズに対応した公開講座を実施する。
活動指標	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	B-1-③ 次世代へ伝える地元先生育成プロジェクト
事業概要	社会人を対象とし、大学等の高等教育機関や市町の社会教育団体等における専門的な学習機会の提供により、次世代の地域人材に学んだ知識を伝えられる人材育成を目的とした事業。 このプロジェクト目標は、大学等の高度な知識をはじめ、地域資源、地域課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、地域交流活動などを通じて、積極的に次世代へ学んだ知識を伝える事で、地域のつながりを強め、総合的な地域人材の育成を図る。
事業計画	2024 年 5 月 地元先生育成プロジェクト実行委員会を開催 プロジェクト実施に向けた企画・運営を行う。 6 月 講師・講座内容の決定 7 月 チラシ作成・申込受付 8 月～12 月 講座期間 講座内容 5 講座程度を予定 高等教育機関や市内高等学校、地域で活躍する社会教育団体等と連携し、特色ある学びの提供と、学びを活かした活躍の場を広げられる講座を行う。 ・学びを通して知識を広げ、活躍できる場の提供を行う。

【取組 2】（地域住民に向けた健康増進支援事業）

【B-2-①】 中高年の健康増進分野（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 15
取組事業 No.	B-2-① 「人生 100 年時代健康いきいきプロジェクト」 ①中高年の健康増進分野
事業概要	『ぶらり地元ウォーキング 4.0』 現在、テクノロジーの進化とともに身体を動かすことがますます少なくなっており、世界保健機関も「WHO 身体活動・座位行動ガイドライン」を示すなど、世界中で身体不活動が問題視されている。しかし、身体を動かすことを習慣化するためには、運動を行うきっかけづくりや運動することによる心地良い感覚を味わうことが重要である。 そこで、びわ湖東北部の 3 市（米原市、長浜市、彦根市）において地域の歴史等の資源を活用し、身体を動かすきっかけや楽しさを感じる取り組みとしてウォーキングツアーを開催する。 また、今年度は新たに運動×健康×環境というキーワードを掛け合わせ、地域の美化活動を伴った取り組みを 3 市のウォーキングツアーの中に取り入れ実施する（彦根市を予定）。近年、『プロギング』というゴミ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発の新しいフィットネスが注目されている。また、『スポ GOMI』といわれる、チーム対抗の競技としてのゴミ拾いを楽しむイベントも全国各地で開催されている。滋賀県東北部地域は、自然環境が豊かであり、その環境を保全していくことも重要な取り組みだと考えられる。そこで、ゴミ拾いなど地域の美化活動を伴い、遊びの要素を加えた健康づくりのためのウォーキングイベントを開催する。

事業計画	6 月 日程・コース・見学先・内容・ガイドや講師等の決定・キーワードの検討 7 月 準備開始 8 月 募集開始 広報誌掲載・チラシ配布 10 月～11 月 イベント開催（彦根市、米原市、長浜市のそれぞれで開催） 12 月 アンケート集計 1 月～ 次年度の検討
------	---

【B-2-②】色と光でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 4
取組事業 No.	B-2-② 光と色でつながるびわ湖東北部地域の健康づくり
事業概要	【目的】 学生を含む地域住民に対して、健康を脅かす生活習慣病やがん、認知症の疾患や予防に対する関心をもち、健康づくり活動への一歩を踏み出す支援を行う。 健康づくり支援は世界各地で取り組まれている「世界アルツハイマーデー」「乳がん月間」「世界糖尿病デー」の各期間を中心に 3 つのプロジェクトを実施しする。 【各プロジェクトの主な内容①②③】 ①対象者への健康教育（講座，ワークショップ活動，啓発情報展示） ②情報ツールによる情報発信（ラジオ，ホームページや Facebook，instagram） ③ライトアップ（連携する団体を象徴する場所）による情報発信 【プロジェクト 1：認知症高齢者とともに「オレンジリング」】 目的：認知症高齢者への理解と対応について考える ①米原市認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座の実施 ②情報ツールによる発信：誰でもできる認知症の人への対応について ③オレンジライトアップ（米原市役所：調整中） 【プロジェクト 2：乳がん患者とともに「ピンクリボン」】

	目的：乳がん患者への支援について考える ①がん検診推進グッズの展示やがん患者への支援（タオル帽子作成ワークショップ） ②情報ツールによる発信：がん患者やその家族への思いと支援 ③ピンクライトアップ（聖泉大学） 【プロジェクト3：糖尿病を予防する「ブルーサークル」】 目的：糖尿病予防を毎日の生活改善から考える ①糖尿病予防に関する啓発物の展示 ②情報ツールによる発信：気軽に取り組める糖尿病予防の食生活 ③ブルーサークルライトアップ（彦根城：調整中）
事業計画	連携先について 【プロジェクト1】米原市くらし支援部高齢福祉課 【プロジェクト2】ピンクリボンひこね 【プロジェクト3】彦根市福祉保健部健康推進課 【ライトアップ】株式会社 工房 jinta 会場について 米原市内（役所内コンベンションホール）、彦根市内（聖泉大学、彦根城） 全体準備スケジュール 6月：連携先との調整【プロジェクト1・2・3】 各プロジェクトの実施日の決定 健康教育等内容の決定 活動する学生の募集 ライトアップに関する許可と周知 9～11月：プロジェクトの実施 12月：前プロジェクトのまとめ 各プロジェクトスケジュール 【プロジェクト1：認知症高齢者ともに「オレンジリング」】 7月：詳細なスケジュールを決定する 日時、関係者役割、広報、予算 8月：講座とライトアップの開催通知または配信（チラシ・HP） 関係者との事前打ち合わせ 9月：必要物品準備 ライトアップ実施 10月：講座の実施（認知症サポーター養成講座）

	プロジェクト実施報告 【プロジェクト2：乳がん患者とともに「ピンクリボン」】 8月：詳細なスケジュールを決定する 日時，関係者役割，広報，予算 9月：ワークショップとライトアップの開催通知または配信（チラシ・HP） 必要物品準備 関係者との事前打ち合わせ 10月：ワークショップの実施 ライトアップ実施 プロジェクト実施報告 【プロジェクト3：：糖尿病を予防する「ブルーサークル」】 9月：詳細なスケジュールを決定する 日時，関係者役割，広報，予算 10月：普及啓発展示とライトアップの開催通知または配信（チラシ・HP） 必要物品準備 関係者との事前打ち合わせ 11月：普及啓発展示の実施 ライトアップ実施 プロジェクト実施報告
--	---

【B-2-③】土倉の森の伝承～散策と観察～（長浜バイオ大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 2（地域住民に向けた健康増進支援事業）
取組事業概要	地域住民の健康増進のために、自治体と連携し、健康への意識向上、取組継続、将来的には地域の担い手育成を目指す。
活動指標	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。
対応 SDGs 番号	3, 15
取組事業 No.	B-2-③ 土倉の森の伝承～散策と観察～
事業概要	健康的な生活を送るには、食事や運動、睡眠などの生活習慣が重要である。それに加え、社会交流によって、好奇心を持って学び探求し、創作することも重要な要素である。そこで本事業では、これまで行ってきた土倉の森ウォーキングをさらに充実させ、新たな魅力発見に繋げる。本学の実験機器である電子顕微鏡を公開し、ウォーキングで得られたサンプルを電子顕微鏡解析することで、土倉の森への知的探究心を養う。 また、発展的な取り組みとして土倉の森の反対側に位置する岐阜県揖斐川町にて同様のウォーキングを実施し、県を跨いで自然、歴史、暮らしへの愛着を醸成するイベントの可能性についても検討し、可能であれば年度内の実施を実現する。
事業計画	6 月 日程やコースの見学，内容等の選定 7 月 募集準備，募集開始，広報へ掲載 8 月 土倉の森ウォーキング(1)と植物や鉱物探索と試料採取，電子顕微鏡を用いた試料解析（後日本学で開催） 11 月 土倉の森ウォーキング(2)，鉱山歴史遺産と植物試料採取（後日本学で開催） 12 月 土倉の森ウォーキング展の開催（これまでの事業の総まとめ） 以上の計画から，土倉の森の発展に寄与する。

【取組 3】（国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業）

【B-3-1-①】防災士養成講座（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	B-3-1-① 災害に強いまちづくりプロジェクト 防災士養成講座
事業概要	近年、地球温暖化の影響もあり、各地で大規模災害が毎年起こるようになった。地域住民による自助・共助を促進するため、今年度も防災士養成講座を継続して開催する。今後は、地域における防災に関する知識を習得した人を増やすため、防災士有資格者が中心となって、彦根市、米原市、長浜市と会場を移し、実施することも視野にいれる。
事業計画	防災士養成講座（通信レポート+2 間講義+防災士試験） 〔講師〕 滋賀大学・滋賀県立大学・立命館大学・京都橘大学・彦根地方気象台、NPO 政策研究所・日本防災士会滋賀県支部の講師 〔会場〕 聖泉大学（2 日間） 〔定員〕 95 名程度 〔募集〕 各連携機関に PF 推薦枠を設け募集するとともに一般募集も行う。

【B-3-1-②】防災に関するワークショップ（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	B-3-1-② 災害に強いまちづくりプロジェクト ～防災に関するワークショップ～
事業概要	南海トラフ地震など自然災害の脅威が増しており、日頃からの防災意識や技術を学ぶことが重要である。そこで今年度は、防災士資格を取得した学生（防災に興味ある学生も可）と地域住民が共同して学ぶ機会を創出する。具体的には、地域防災や災害が起こった際の対応で学生と地域住民が連携している事例の学習や災害時の対応に関するワークショップを行う。その後、大規模災害が起こった場所（石川県など）、もしくは防災に関する知識を学べる施設（阿倍野防災センターなど）への見学を行い、地域と大学間の防災に関する連携可能性や課題を探る。
事業計画	①事例学習および防災ワークショップ 〔会場〕 聖泉大学 〔定員〕 30 名程度（学生および地域住民） ②施設見学 〔内容〕 防災ワークショップ、防災施設の見学 〔定員〕 30 名程度（学生および地域住民） 〔予定〕 5～6 月 参加者募集 8 月 事例学習 9 月 ワークショップ 10～11 月 施設見学 12 月 アンケート回収・反省会 1～2 月 次年度検討

【B-3-2-①】SDGs を基にする地域連携助成活動（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	プラットフォーム参加校の教育資源と地域の資源を活用し、自治体・プラットフォーム参加校・産業界・地域が連携した、地域活性化イベント及び国際交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-2-① SDGs を基にする地域連携助成活動
事業概要	「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」として、PF 連携大学（学生・教員）と PF 連携機関・びわ湖東北部地域にある各種団体が連携し、地域活性化や地域課題解決に向けた取組を行う事業。連携大学から事業計画を募集し、活動を認められたプロジェクトには、活動費（最大 10 万円）の範囲内で提案に沿った取組を行う。なお、会計については、プロジェクト提案大学で行い、PF 事務局へ請求する。各大学での募集は 8 月末まで実施可能とする。 ※1 大学 1 プロジェクトまでとする 活動報告は、成果報告会を活用して、プロジェクトに参加した学生より行う。 また、プロジェクト実施学生には、学生アンケートにて地域への愛着度調査を実施するとともに、今年度は「学生の防災活動・キャンパス SDGs・屋台から関わり合いを作るプロジェクト」に参加した学生にも調査を依頼し実施する。
事業計画	6 月 プロジェクト募集要項・申請書作成、募集開始 6 月下旬 プロジェクト決定 ～8 月末 プロジェクト応募締切 6 月～2 月 プロジェクト開始 各大学のスケジュール・課外活動規程に従って実行 1 月 学生アンケートの実施（愛着度調査） 2 月下旬 プロジェクト実績報告・会計報告 3 月上旬 協議会成果報告会にて活動報告

【B-3-2-②】屋台から関り合いを作るプロジェクト（滋賀大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	10, 11, 17
取組事業 No.	B-3-2-② 屋台から関わり合いを作るプロジェクト
事業概要	屋台とは自己表現の場である。屋台とは一時的なお試しができる実験の機会である。屋台とは人の関わり合いを作り出せる装置であり、交流のプラットフォームである。そんな屋台を、大学生が地域のなかで地域人と共に作りあげる。作り上げた屋台で、実際に関わり合いを作る実験をする。 彦根市内商店街と店主の協力を得て、学生と教職員によるプロジェクトチームを作る。そのチームが中心となり、屋台制作と屋台イベントの企画と実践を行う。例えば、 1) 商店街イベントでの屋台出店 2) 滋賀大学のサステナウィークでの屋台出店 を想定している。 学生の興味・関心をベースに、学生主体になるよう工夫したい
事業計画	9 月下旬 市内商店街にて、キックオフ&屋台設計・制作ワークショップ 10 月～ 屋台製作と出店内容の企画検討 10 月 19 日 近江鉄道ガチャフェス等の地域イベントに出店 11 月 23 日ごろのひこねえびす講イベントに出店 11 月最終週 滋賀大学彦根キャンパスにて行うサステナウィークの一環として企画。 地域イベントには、滋賀大学の学生を中心にびわ湖東北部の学生にも参加を呼びかけたい

【B-3-2-③】福祉を伝えるプロジェクト（滋賀大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3, 5, 10, 11, 17
取組事業 No.	B-3-2-③ 福祉を伝えるプロジェクト
事業概要	大学生がフィールドワークやワークショップを通じて、社会福祉のリアルを経験する取り組みである。社会福祉には、高齢者や障がい者、子ども、貧困層など、多様な人々が含まれている。大学生が福祉理解を深めることは、学生の個人的な成長にとどまらず、彼らが社会人として時代を担う時の大事な視点を涵養することにつながると思っている。それを目的に、次の事業を予定している。 1) 「福祉教育を考える連続講座」事業 「福祉教育」は福祉を伝えることの一つとして、学校への出前講座などとして、実践されてきた。しかし、ここで一旦立ち止まり、「そもそも」を考える。福祉教育は、実際に何を、なんのために伝えるのか。この事業では、湖東・湖北地域の社会福祉協議会さんや福祉団体と連携し、大学生が福祉を考え、子どもたちに福祉を伝えていくことを実践したい。今の時代の福祉教育の在り方や可能性を探究することを目指す。 2) 「福祉を伝えるワークショップ」事業 滋賀大学のサステナウィークと連動して、障害者の働き方などへの理解を深めるワークショップや講演を開催する。学生の興味・関心をベースに、学生主体になるよう工夫したい。

事業計画	滋賀大学の集中講義と連動した取り組みとして実施予定。 9月3、4、5、6日 滋賀大学彦根キャンパスにて、連続開催のワークショップとして実施。授業履修生だけでなく、滋賀大学全学部、びわ湖東北部連携事業の大学生にも参加を呼びかけたい。 11月最終週 滋賀大学彦根キャンパスにて行うサステナウィークの一環として、学外に周知し参加してもらえるワークショップ・講演として企画したい。
------	---

【B-3-3-①】 Feel 度 Walk&ショートショートで地域の魅力を再発見しよう（滋賀文教短期大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	B-3-3-① Feel 度 Walk & ショートショートで地域の魅力を再発見しよう
事業概要	昨年度に引き続き、Feel 度 Walk で地域を歩き、地域の魅力を再発見します。 今回は、後半は見つけた発見から、リレー形式で作品をつないだり、身近なところから新しい伝説を考えだしたりするなど、自由な発想で好奇心を高め、仮設発見力を高めてもらうような多様な交流イベントを開催します。 講座の最後には、講師のミニ対談を行う予定です。 講師には、全国の地域や学校で、町おこしや探究型学習をサポートしている「みつかる＋わかる」代表理事・ジェネレーターの市川力氏と、全国各地でショートショートの書き方講座を開催している、作家の田丸雅智氏を予定しています。お二人の講師が、さまざまな地域でのイベントに関わっている体験等を、本講座でも生かしていただけたと考えています。 昨年同様、長浜市さんに協力をお願いし、地元の活性化やまちづくりの一助になるようなイベントを企画します。
事業計画	7 月 10 日 各機関へ依頼文発送 7 月 15 日 申し込み開始 9 月 15 日 講座の実施 【講座の詳細】 [講座] 10 : 00～15:00 [講師] 市川力 田丸雅智 [会場] 滋賀文教短期大学 [予約] 事前申込制

【B-3-3-②】音楽を通じた多文化共生のまちづくり演奏会（滋賀文教短期大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。ために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	11
取組事業 No.	B-3-3-② まちの魅力発信プロジェクト 音楽を通じた多文化共生のまちづくり演奏会
事業概要	まちなかコンサートの開催 地域における芸術文化の振興を図ること、音楽を通じた国際交流活動を推進することを目的として、国際親善交流音楽会を実施する。 JR 琵琶湖線田村駅前の開発に併せ、長浜バイオ大学、滋賀文教短期大学の学園祭と一体で、地域の魅力を知ってもらうきっかけとして音楽会を実施する。特に人口減少により今後より一層重要となる多文化共生の側面を音楽会に持たせることにより、未来のまちづくりを想像する活動に資するようなプログラムを検討する。 出演者についてはプロアマ問わず、プログラムで特に多文化共生の色合いを出せるよう調整する。また、国籍は問わないが、外国籍の出演者も検討する。併せて学生や、留学生の出演やトークイベント等も検討する。
事業計画	以下の日程で計画を進める予定。 6 月上旬～ 会場の調整 出演者の調整 7 月上旬～ 大学祭実行委員等との調整 機材等の検討、調整 8 月上旬～ 出演者の確定 9 月中旬～ プレスリリース、ポスター、チラシ配布 10 月 19 日、20 日 音楽会実施

【B-3-3-③】ユニバーサルスポーツを通じた地域交流および多様性理解の推進（聖泉大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業）
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進する活動を毎年 5 件以上実施する。 るために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	3, 11
取組事業 No.	B-3-3-③ ユニバーサルスポーツを通じた地域交流および多様性理解の推進
事業概要	「モルック」はチームや個人で木の棒を的に投げるユニバーサルスポーツであり、子どもから高齢者、障がいを持つ人など“誰でも楽しむこと”ができる。最近ではメディアにも取り上げられ、わが国でも大きく注目を集めている。障がいを持つ子どもや大人、高齢者は身体を動かす機会や交流の機会も少なく不活動による心身の健康問題が懸念されている。ユニバーサルスポーツはその解決の一助になるだろう。また、ユニバーサルスポーツは多様な人々の交流のためのツールともなり得る。 そこで、本事業は、モルックやボッチャを中心としたユニバーサルスポーツ体験会を開催し、地域の方の運動機会の創出および交流と多様性理解を促進する。また、今年度は、室内でも気軽に取り組めるよう改良したモルックを開発できないか、企業との連携も視野に入れて進める。
事業計画	6 月 日程・内容等の決定、改良モルックの素案作成 7 月 準備開始、企業との打ち合わせ 8 月 募集開始 広報誌掲載・チラシ配布、改良モルックの試作品を制作 10 月～11 月 イベント開催 12 月 アンケート集計 1 月～ 次年度の検討

【B-3-3-④】「やさしい日本語」普及活動（長浜市）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業)
取組事業概要	安心安全なまちづくりや地域活性化と交流を促進するために、プラットフォームが連携し、学生の地域活動の推進、多様な交流イベント等を実施する。
活動指標	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。
対応 SDGs 番号	10, 11
取組事業 No.	B-3-3-④ 「やさしい日本語」普及活動
事業概要	現在、びわ湖東北部地域（彦根市、米原市、長浜市）には 8,297 人（令和 5 年 12 月 31 日現在）以上の外国人住民が生活しており、外国人住民の定住化が進み、地域産業の担い手として欠くことのできない存在となっている。 外国人にとって分かりやすい「やさしい日本語」を地域で普及させることにより、外国人住民への支援を総合的に行うと同時に、日本人住民にも多文化の理解を促し、共に活躍する地域社会の構成員として、多文化共生のまちづくりを進める仕組みを構築する。 具体的な活動として、商工会議所と連携し、企業、団体への啓発活動を行い、「やさしい日本語」協力店舗・施設の増加を目指す。 また、大学（留学生等）と連携し、地域の事業者、住民を対象とした「やさしい日本語」講座の開催及び留学生や外国人住民、社会福祉協議会等の団体との共催による外国人と日本人の交流イベントを開催する。
事業計画	① 「やさしい日本語」協力店舗・施設の募集、啓発活動 ② 事業者・市民を対象とした「やさしい日本語」講座の開催 ③ 市職員を対象とした「やさしい日本語」研修の開催 ④ 日本人と外国人の交流イベントの開催 ⑤ 各種イベントと連動した「やさしい日本語」パネル展示 ⑥ 「やさしい日本語」を使った広報ツールの作成

【取組 4】（ネットワーク推進事業）

【B-4-1】 キャンパス SDGs（滋賀県立大学）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・ 地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・ 地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 4（ネットワーク推進事業）
取組事業概要	地域課題に取り組む人々への愛着が増すよう、団体間の交流促進や意見交換の場を設け、よりよい連携を推進する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4-1 キャンパス SDGs びわ湖大会
事業概要	・ びわ湖東北部地域連携協議会が主催となって、令和 6 年度を通して講演会、ワークショップなどを実施するとともに、大学や地域の団体の交流会を実施する。 ・ SDGs の達成に向けて持続可能な社会をどう実現していくのか、気候変動対応や CO₂ 削減など社会的な課題に対応する講演会やワークショップでびわ湖東北部地域連携協議会の学生が中心となる展開を実施する。 ・ 実施内容については、学生委員を募集し、学生の自主性を尊重し検討していく。 ・ 大学や周辺地域などを会場に多くの人々が SDGs について知り、考え行動するきっかけとなるイベントを開催する。
事業計画	1. 実施期間（予定）：学生委員の企画に応じ、年間を通して随時実施 2. 内容：SDGs シネマ上映、講演会、ワークショップ、事例発表交流会、 TAKIBI TALK など 3. 実施スケジュール 5 月 学生委員募集・概要検討 8 月 実施内容、スケジュール決定 9 月～ 前半イベント広報、開催準備・実施 大学講義にて企画検討 11 月～ 後半イベント広報、開催準備・実施

【B-4-2】市民活動団体交流プロジェクト（米原市）

WG 名称	B. 地域コミュニティの活性化事業
課題	びわ湖東北部地域の賑わい創出および住民支援サービスの充実
達成目標	・地域課題に取り組む活動数及び活動参加者数を 2018 年比 40%増加させる。 ・地域課題に取り組む活動に参加した学生の地域への愛着度 65%以上を達成する。 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 4（ネットワーク推進事業）
取組事業概要	地域課題に取り組む人々への愛着が増すよう、団体間の交流促進や意見交換の場を設け、よりよい連携を推進する。
活動指標	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。
対応 SDGs 番号	17
取組事業 No.	B-4-2 市民活動団体交流プロジェクト
事業概要	【背景】 地域課題の解決には、地域住民と行政等の協働が必要不可欠。 幅広い分野の中でこういった地域課題が存在し、市民活動が行われているのか、様々な主体が相互に理解し、交流する必要がある。 【目的】 市民活動団体同士の交流や、行政や地域住民とのつながりを創出する中で、市民活動の更なる活性化を図ため、地域課題に取り組む団体の活動内容を紹介し、交流する場である「つくる未来展」を開催する。 【備考】 令和 3 年度に米原市単独で初開催した。 令和 4 年度・令和 5 年度は、びわ湖東北部地域連携協議会の場を活用し、長浜市や彦根市と連携しながら、広域的な活動を行った。 令和 6 年度は、昨年度の取組をベースとしながら、更なる団体間の交流が生まれるような場づくりを行う。また、講演会やワークショップ等も開催しながら、楽しみながら交流が生まれるような仕掛け作りも行う。
事業計画	【スケジュール】 ○ 5 月 関係者企画協議（米原市、長浜市、彦根市） ○ 6 月～7 月 展示団体募集 ○ 8 月 展示物制作 ○ 9 月～1 月 米原市、長浜市、彦根市の 3 会場で展示会を開催

	【展示内容】 ○出展者：既に活動している団体 これから活動を予定している団体 行政等の公的な事業者 ○展示場所：米原市、長浜市、彦根市の会議室、オープンスペース等 ○展示期間：各会場3日間程度 ○展示内容：現在の活動内容、課題、今後の予定などのパネル展示 【交流】 ○実際の展示物等を使って、意見交換等ができる環境を創出する。 ○展示期間中に、各団体や個人などに実際に集まっていただき、意見交換や交流ができるような機会を創出する。その際に講演会やワークショップ等も開催し、楽しみながら交流できるような仕掛けを行う。【新規】 【アーカイブ】 ○つくる未来展の様子や、交流会の様子をアーカイブし、参加できなかった方にも情報を届ける。
--	--

【C-1-1】近江での SDGs の実践

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 1 (SDGs をテーマとした共同講義事業) 取組 2 (単位互換事業)
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	・SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。 ・単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	全
取組事業 No.	C-1-1 近江での SDGs の実践
事業概要	SDGs や地域課題をテーマとし、協議会加盟大学から講師を派遣し滋賀県内の大学生の教育環境の充実を図るための共同科目を開講する。 科目概要は次のとおり。(シラバスより) 持続可能な開発目標である SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015 年 9 月の「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の目標から構成される人間、地球および繁栄のための行動計画である。滋賀県は全国に先駆けて、2017 年 1 月に SDGs を県政に取り込むことを宣言した。本科目ではまず、SDGs とは何か学び、SDGs で掲げる 17 個の目標とその目標達成への実践例なども学ぶことで SDGs への理解を深める。また、SDGs での目標を近江の地で実践していくためにはどのような行動計画を立ててどのように実践していけば良いのかを、グループワークを通してそれぞれが考え、それを皆で共有することで、将来の持続可能な社会の構想実現に寄与するための足がかりを得る。
事業計画	開講…後期 (秋学期) 集中 (10 月～12 月) 単位数…2 単位

	受講対象…環びわ湖コンソ単位互換科目として滋賀県内の大学生が受講可能。 授業計画（シラバス抜粋）… SDGs とは何か（担当：長浜バイオ大） ・ SDGs とは何か・滋賀県における SDGs への取り組み ・ 竹生島の現状視察と SDGs の実践（フィールドワーク） ・ SDGs の5つのP（People：人間）（担当：滋賀文教短期大） ・ SDGs の5つのP（Prosperity：豊かさ）（担当：滋賀大） ・ SDGs の5つのP（Planet：地球）（担当：滋賀県立大） ・ SDGs の5つのP（Peace：平和）（Partnership）（担当：聖泉大） ・ まとめ（担当：長浜バイオ大）
--	--

【C-1-2】 SDGs 単位互換科目「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」（県立大学）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 1（SDGs をテーマとした共同講義事業） 取組 2（単位互換事業）
取組事業概要	SDGs や地域課題をテーマにした共通科目の企画・実施及び環びわ湖大学・地域コンソーシアムの枠組みを利用した大学生向けの教育環境の充実を図る。
活動指標	SDGs をテーマにした共通科目を 1 科目以上開発する。 単位互換科目受講生を最終年度までに 2018 年度比で 30 名以上増加させる。
対応 SDGs 番号	4、1 1
取組事業 No.	C-1-2 SDGs 単位互換科目 「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」
事業概要	・ SDGs に係る県内大学生の理解を深め、行動を促進するため、環びわ湖大学・地域コンソーシアムの単位互換科目として「SDGs と滋賀のグローバル・イノベーションー近江の暮らしとなりわいー」を実施する。 ・近江の暮らしとなりわいの現場における様々な営みを事例として、持続可能な共生社会の実現に必要な知見を導き出すとともに、ローカルな現場およびグローバルな現場の実践・課題が互いにどのようにかかわっているのか、また、その関わりによって、どんな未来が実現できるかについて、外部講師と共に議論する。 ・ SDGs 達成に取り組む県内企業や、SDGs 推進に関わる外部講師を招いた講義を提供し、彦根、米原、長浜地域を中心とする学生が参加できるように周知する。 ・令和 5 年度は、29 名の履修があり立命館大学から 2 名の参加者があった。
事業計画	1. 実施期間(予定)：令和 6 年 8 月 16 日（金）～18 日（日）（夏期集中講義） 2. 定員：100 名 3. 担当教員：上田洋平（滋賀県立大学講師） 4. 実施スケジュール（予定） 6 月環びわ湖大学・地域コンソーシアムにおける単位互換科目募集開始 6 月中旬 単位互換事業科目履修登録締切 8 月 16 日～18 日 授業実施

【C-3-1-①】図書館を活用した若者世代の読書推進事業（長浜市）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-1-① 図書館を活用した若者世代の読書推進事業
事業概要	中学・高校生、大学生などを中心とする若者世代の読書量は、年々減少傾向にある。自ら考える力を培うことができる読書活動の推進は、全国的に課題とされている。また、びわ湖東北部地域においても、中・高・大と年齢が上がるにつれ図書館の利用は減少しており、若者の読書活動推進は地域の人材育成に関わる課題であると考えられる。 この課題を解決するための方策のひとつとして、びわ湖東北部地域連携協議会の連携大学の学生と協働で、図書館を活用した若者世代の読書を促す機会を創出し、図書館への来館・読書につながる事業をおこなう。
事業計画	秋～冬頃 図書館の資料や施設を活用したイベントや展示、啓発の実施内容に応じて、地域で同時開催や巡回など幅を持たせ、様々なアプローチで、若者世代の読書や図書館への興味関心を高める。今の若者の心をつかむ事業を同世代が企画することで、より効果が期待できる。

【C-3-1-②】びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト 本を紹介してみませんか
2024 ～POP・本の帯コンクール～（滋賀文教）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4、11
取組事業 No.	C-3-1-② びわ湖東北部地域 文化・芸術推進プロジェクト 本を紹介してみませんか 2024 ～POP・本の帯コンクール～
事業概要	大学・専門学生、中学・高校生を中心とする若者世代の読書については、政府も、子どもの読書活動推進に関する法律に基づき、新たに第 5 次の子どもの読書活動推進に関する基本的な計画を策定し取組を進めています。若者の読書活動推進は地域の人材育成に大きく関わる課題であると考えられるため、その課題を、長浜市・彦根市・米原市に加え、今年度は新たに、地域の高校や民間とも共有し、解決への方策の一つとして、自分が読んで面白いと思った本を紹介する P O P または本の帯を、夏休み期間を中心に募集してコンクール実施します。コンクールに応募することで読書へのきっかけをつくり、さらに、コンクールに応募された作品を広く展示・周知することで、広く若者世代の読書への関心を呼び起こすことを目的としています。また、受賞作品を配したポスターカレンダーを作成して県内図書館に配布することでさらに広い範囲の地域での読書活動推進にもつなげていく予定です。 また、平和堂などの書店との連携も検討しています。
事業計画	以下の日程で計画を進める予定です。 7 月初旬 ポスター、チラシ配布

	(図書館 大学 高等学校 中学校 他)
7月中旬～	作品募集
9月下旬	
10月初旬	審査会
10月初旬以降	
11月	ポスターカレンダー作成配布

【C-3-2-①】不登校・ひきこもりプロジェクト

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-3-2-① 不登校・ひきこもりプロジェクト
事業概要	これまでのプロジェクトを通じて、不登校やひきこもり状態にある人数が増え続けるなかで、多様な価値観を理解した学生のサポート人材を育成しつつ、教育委員会とも連携して大学内での居場所の開設と不登校生徒の受け入れ要請に応える体制を整えてきた。 また、滋賀県フリースクール等連携協議会とも連携し、大学が「多様な教育を考え、実践する」ための行政や支援団体とのハブ的な役割を持つことに取り組んできた。 この成果のもとに、大学 (地域連携教育推進センターを核とした) の居場所に、不登校である中学生が通うようになっており、その学生チューターの育成・確保に努める。また、ハブ的役割として居場所情報サイト「ひこねの居場所」を引き続き開設し情報発信に努めつつ、彦根市での不登校児童生徒支援連絡協議会に参画し、地域における不登校児童・生徒への理解と対応改善に取り組む。
事業計画	4 月～「ひこねの居場所」ウェブサイトの維持管理を行う。 滋賀フリースクール等連絡協議会及び彦根市社会福祉課不登校児童生徒支援連絡協議会に参画する。 地域からの居場所へのニーズ (不登校生徒の受入) に応えられるよう体制を整備する。

【C-3-2-②】中学校部活動地域移行支援人材育成講座（応用編）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2-② 中学校部活動地域移行支援人材育成講座（応用編）
事業概要	現在、文部科学省で検討されている学校における働き改革の一方策として、「部活動の地域移行」が挙げられており、移行を担う地域人材の確保が必要とされている。この事業は 2022 年基礎編、2023 年実践編と継続事業であり、地域住民を対象として「部活動の地域移行」を担う人材養成講座（応用編）として開設する。今年度は、応用編とし子どもの心理やマネジメント、コーティングについての学習機会を提供する。
事業計画	中学校部活動地域移行支援人材育成講座（3 回シリーズ） 概要）子どもの心理やマネジメント、コーティングについての学習機会を提供する。 日程）令和 6 年 11 月～1 月 講師）大阪体育大学教員 講座）対面（状況によりオンライン） 会場）各 1 講座（彦根市、米原市、長浜市）にて実施

【C-3-2-③】びわ湖東北部地域の大学生による子ども食堂プロジェクト

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-2-③ びわ湖東北部地域の大学生による子ども食堂プロジェクト
事業概要	昨今地域課題となっている学校以外での居場所のあり方について、びわ湖東北部の大学生が主体となり学校や家以外に安心して過ごせる居場所を確立する。2024 年度は社会福祉協議会や長浜市議会議員とも連携しながら、主に地域の子どもたちが安心して食事を楽しめる場所「子ども食堂」を提供する。また、学生という立場が中学高校生とも年齢が近いことから、悩み事や相談にも乗る予定である。その他の活動として、フードバンクを地域内に常設することにより不要な食品が廃棄されず循環する社会への貢献も予定している。 活動の周知・理解を求めるために、地域のイベント、びわ湖東北部の学園祭等に参加する。
事業計画	4 月：対象年齢、学区・実施場所打合せ 5 月：宣伝活動 (滋大祭への出店) 子どもを対象とした出店 学習支援の試験的实施 6 月：宣伝活動 (湖風祭への出店) 子ども食堂の運営を前提とした飲食の提供 地域内にてフードバンクの実施 7 月：第 1 回子ども食堂の実施 10 月：フードバンク (対象者を一人暮らしの大学生に限定する。)

	11 月：宣伝活動（近隣学園祭への出店） 12 月：第 2 回子ども食堂の実施 1 月：事業取りまとめ
--	---

【C-3-3-①】 子ども統計プログラミング教室（滋賀大学）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-3-3-① 子ども統計プログラミング教室
事業概要	令和 6 年 11 月を目途に、小学校高学年とその保護者 15 組程度を対象に楽しみながらプログラミングや統計データ・データサイエンスに触れる教室を開く。統計学習にも役立つデータ検索・分析するためのプログラミング学習を中心としてデータサイエンスや SDGs に触れるワークショップを行う。 講師は、総務省主催の子ども統計プログラミング教室の講師を務めた実績を持つ事業者に依頼することで、講義内容の担保を図る。 長浜市内の会場で開催する。
事業計画	9 月下旬 HP への記事掲載やチラシ配布等による広報及び受講者募集 10 月中旬 受講者募集締切 11 月初旬 子ども統計プログラミング教室開講

【C-3-3-②】LLブックを作ろう（電子書籍を作ろう）（滋賀文教）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 3（幼・小・中・高校生への学習支援事業）
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	3. 4. 10
取組事業 No.	C-3-3-② LLブックを作ろう（電子書籍を作ろう）
事業概要	昨年度に引き続き、自分で考えた作品を電子書籍にする方法を体験します。今回は LL ブックの使い方を学び、実際に作成します。 「LL ブック」とは、知的障がいのある人や日本語を母語としていない人など、文字を読んだり、本の内容を理解することが苦手な人でもやさしく読めるよう工夫されている、やさしくてわかりやすく書かれている本のことを言います。 本講座では、実際に LL ブックを作成することを通し、広くバリアフリー図書について知ってもらうとともに、学校教育現場での、読書に困難を抱える児童生徒へのアプローチの方法を提供するとともに、広く障害児者サービスの拡充や、全ての人に読書を提供することを目指します。 LL ブックの作成、活用については、滋賀県立図書館および滋賀県立大学図書館とも連携しながら進める予定です。 「LL ブック」とは 参考 ハートフルブック https://heartfulbook.jp/overview/

事業計画	全3回講座 ・8月中の土日 第1回 LLブックとは LLブックの作り方講座 第2回 LLブックの構想／素材集め (3回講座までに、各自作成を進める) ・10～11月 第3回 LLブック完成 講師：野口武悟先生（専修大学） 欧文印刷
------	--

【C-4】 びわ湖東北部地域合同大学説明会 （滋賀文教）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 4（地域内進学促進事業）
取組事業概要	幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供（大学説明会）及び学習支援事業（大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等）を実施する。
活動指標	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年 1 回以上開催する。
対応 SDGs 番号	8, 11
取組事業 No.	C-4 びわ湖東北部地域合同大学説明会
事業概要	プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を実施する。 私立 3 大学が中心となり、参画 5 大学の大学説明会を、年間 4 回会場ガイダンス形式で「びわ湖東北部地域連携協議会」のブースを設け実施する。会場はびわ湖東北部地域、びわ湖東北部地域外でそれぞれ調整予定。各々の会場ガイダンスにおいては説明担当者が自分の属する機関のみならず、参画大学すべての説明を参加者の求めに応じて行うこととする。参画大学すべての広報資料を持参することとする。
事業計画	5 月下旬 ： 参画大学広報担当者打ち合わせ 6 月上旬 ： 会場ガイダンス業者との日程、会場調整（随時） 6 月下旬以降： 会場ガイダンス参加（年 4 回予定） その他 ： 必要に応じてリーフレット等作成

【C-5-1】SDGs 地域人材養成事業（県立大学）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 5（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-1 SDGs 地域人材養成事業
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会参加校の学生、教職員、小中学校や企業関係者、地域活動の実践者、社会人等を対象に SDGs の普及や実践促進に係る以下の人材養成事業を実施する。協議会参加機関の HP や SNS で広く参加者を募り、SDGs の視点を持ち身近な地域で活躍できる人材を養成する。 (1) SDGs 講座 ①SDGs シネマ講座 オンライン等を活用し SDGs をテーマにした映画を題材に講座（4 回）を開催し、意見を共有することで SDGs を自分ごと化して身近な行動を考えるきっかけを提供する。 ②SDGs ワークショップ 外部講師による SDGs に関するワークショップを開催し、2030 年に向けて SDGs を学びなおす機会を提供する。 (2) SDGs 出前講座 県内外の行政機関、教育機関、企業等から依頼を受けて、びわ湖東北部地域連携協議会参加機関から SDGs に係る講師を派遣し講演やワークショップを実施する。
事業計画	○実施スケジュール 6 月頃 SDGs シネマと契約 8 月頃 SDGs 講座の申し込み受付開始 （SDGs シネマ講座および SDGs ワークショップ） 9 月～翌 3 月頃 SDGs 講座開催（シネマおよびワークショップ） ・SDGs 出前講座は、地域や企業等の依頼に応じて随時講師を派遣

【C-5-2】 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト（長浜市）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 5（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-2 びわ湖東北部地域 ICT 教育推進プロジェクト
事業概要	長浜市（長浜市教育委員会事務局 長浜市教育センター、教育改革推進室）、米原市（米原市教育委員会事務局 米原市教育センター）、彦根市（彦根市教育委員会事務局 ICT 教育推進課）において、昨年度は 7 回の講座を実施し、各市 10 名程度の教員が本講座を実施してきた。 今年度事業概要は、ICT の効果的な活用や学校でいかに ICT 教育を推進していくかを学ぶ研修を行う。また、昨年度までは講座を通しての交流であったが、今年度は各市の ICT 教育推進教師代表者が授業実践を公開し、協議を通して交流を深めるとともに、地域内のさらなる ICT 教育の推進を目指す。
事業計画	5 月 各市担当者打ち合わせ 6 月 各市担当者研修に係る協議 受講者任命 9 月～2 月 研修会、ならびに公開授業の実施（3～5 回を予定） 受講者は各市の公開授業研修会に互いに参加しあう。 公開授業には講師から指導助言をいただく。

【C-5-3】保育・教育者人材養成「小児救急法」講習（滋賀文教）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 5（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	4, 11, 13
取組事業 No.	C-5-3 保育・教育者人材養成「小児救急法」講習
事業概要	小児と乳児、および成人のための CPR（心肺蘇生法）、AED（自動体外式除細動）とその他の応急手当（ファーストエイド）を習得する、MEDIC First Aid の「チャイルドケアプラス™・コース」を開講することで、当地域の保育や教育に従事する人材の安全に関する知識・技能の向上を図り、WG-C の課題解決を目指す。 「チャイルドケアプラス™・コース」は、家族はもとより、学校施設、保育者、スポーツ・コーチなど、子どもたちの健康上の緊急時に対応しなくてはならない人々に最適な講習プログラムである。 昨年度に引き続き実施を計画するが、今年度は地域の保育人材の開拓という課題解決にも資するような事業とする。近年の全国的な保育や教育分野の志願者の減少という観点から見ると、「C. 地域を担う次世代人材の育成」の点からも本講習をキャリア教育の一環としても活用し、保育・教育分野に興味を持つ人材の開拓という課題解決の一助とする。
事業計画	令和 5 年度に引き続き、対象を現役の保育従事者に加え、未来の保育人材の養成という観点から、保育士養成か程で学ぶ大学生及び保育・教育分野を目指す高校生とする。 令和 5 年度の開講実績を参考に、6 月の開催に設定する。1 名の講師に対し 12 名の受講者という規定に基づき、講師は、大阪 YMCA の林健児郎氏

	（チャイルドケアプラス™・トレーナー）と、滋賀文教短期大学教授の松本秀章氏（チャイルドケアプラス™・インストラクター）を招聘する。 多くの方の受講を促し、地域に有益な人材を輩出するために、受講料補助を行う。
--	---

【C-5-4】 未来にはばたく看護職の人材育成

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。(2023 年度評価) ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加 (2023 年度評価)
取組事業名	取組 3 (幼・小・中・高校生への学習支援事業)
取組事業概要	・幼・小・中・高校生に対する教育情報の提供 (大学説明会) 及び学習支援事業 (大学施設等を活用した学習支援やプログラミング教育支援等) を実施する。
活動指標	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに 5 件以上行う。
対応 SDGs 番号	4
取組事業 No.	C-5-4 未来にはばたく看護職の人材育成
事業概要	滋賀県の看護職員は 2,100 人不足 (2025 年時点推計) しており, 2045 年の高齢者人口のピークを迎えますます看護職員不足が見込まれる (滋賀県 HP)。滋賀県は「看護の魅力情報発信事業」, 「地域医療を担う看護職員養成奨学金」などを展開し, 看護職員不足の解決に取り組んでいる。また, 県民の健康を守る医療や看護を提供する各医療機関においても看護師不足は切実な課題であり, 就職だけでなく人材育成へも着手する動きがある。 目的 びわ湖東北部地域において, 地域住民とくに若年層 (幼・小・中) への看護職への関心, 理解を促進し, 将来の看護職人材育成を行う機会とする。 方法 家族連れや若年層が集まる商業施設において, 下記の 3 内容を実施する。 ①看護職の具体的なイメージを持てるよう「未来の看護職に変身体験」 ②技術 (わざ) を体験する「リアルな看護職体験」 ③看護を学ぶ学生や現看護職の紹介「ファッションショー」

	連携先（予定）について 彦根市立病院，彦根中央病院，友仁山崎病院，豊郷病院，滋賀県看護協会第5支部，工房 JINTA（イベント企画）
事業計画	開催時期（案） 2024 年 12 月 1 日（日）10:00～16:00 場所（予定） ビバシティ彦根（センタープラザ，センターコート，研修室） 内容（案） <u>①未来の看護職に変身体験（ユニフォーム着用による写真撮影）</u> 参加者には，看護師（病棟，手術室），助産師，保健師などのユニフォームを試着し，アイテム（聴診器，胎児音を聞くドップラー，健康教育の指示棒など）を持って，職場となる現場風景を写したパネルの前で写真撮影を行う。写真は記念や缶バッジにして持ち帰ることができる。 <u>②リアルな看護職体験（患者さんのからだの音を聞く，赤ちゃん人形を抱く，歯の模型で歯磨き体験など）</u> 参加者には，看護師，助産師，保健師が実際の仕事で行う業務の一部を体験することができる。 <u>③現職看護学生と看護職のファッションショー</u> びわ湖東北部地域などにある看護養成機関（専門学校，大学）の看護学生，医療介護福祉施設の看護職にユニフォーム姿のファッションショーを行う。ファッションショーでは施設，仕事の紹介など情報発信を行う。 7 月 開催についての詳細なプログラム（案）を決定する 8 月 開催関係者での検討会議によるプログラムの決定 9 月 開催通知先の確認と準備，実施 10 月 開催準備（開催場所，必要物品手配や購入） 11 月 開催実施に向けての最終打ち合わせ会議 12 月 開催とその後の振り返り

【C-5-5】哲学対話を通じた共創人材育成プロジェクト（滋賀大学）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 5（地域人材活性化支援事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の子育て等でキャリアにブランクのある社会人、又はプラットフォーム参加校の卒業生を対象に、地域内での就職につながるリカレント教育プログラムを実施する。 プラットフォーム参加校による社会人向けの共同教育講座を実施し、その講座修了者が次の講座活動の補佐を担う等の継続活動によりリーダー的人材の育成を図る。
活動指標	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに 5 講座以上実施する。
対応 SDGs 番号	5, 8, 10, 11, 16, 17
取組事業 No.	C-5-5 哲学対話を通じた共創人材育成プロジェクト
事業概要	哲学対話とは、一般的な話し合いやワークショップとは異なり、正解を出すのではなく、一つの問いに対して、共に考え、語り、聞くことで一人ひとりが考えを深め合う手法である。その哲学対話を通じて、多様で不確実だと言われる時代の一つの光明として、共創的能力を持った人材の育成を目指したい。特に、組織と個人の関係性にフォーカスし、会社と社員、市役所と市民、地域と住民、大学と教職員や学生など、日常当たり前に考えている関係性に問いを立て、新たな関係性を切り拓いていく力、つまりは共創的能力を持った人材育成につなげていく。 具体的には、滋賀大学の授業と連動した「哲学対話プロジェクト」、地域の産業・行政・教育機関等が対話をする「異業種ダイアログ」、哲学対話による組織と個人の関係性を問う「哲学対話フォーラム（仮）」を予定したい。これらのプロジェクトの実行には、協議会メンバーや学生、市民で関心のある人に参加を呼びかけ、また、「哲学対話フォーラム（仮）」は実行委員会形式での実施も考えている。
事業計画	7 月、11 月「異業種ダイアログ」の実施（準備期間 5 月～） 10 月～1 月 滋賀大学の授業と連動した「哲学対話プロジェクト」の実施 3 月 「哲学対話フォーラム（仮）」の開催（準備期間 9 月～）

【C-6-1】 地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発 （長浜バイオ）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・ 地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・ びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 6（共同 FD・SD 事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり，プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために，大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し，最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4, 11
取組事業 No.	C-6-1 地域を担う次世代人材の育成に向けた共同 IR 事業の開発
事業概要	彦根・長浜地域を中心とする人材育成において、教育機能と就業の関連性を調査・分析する共同 IR 事業を実施していく。 この事業の目的は、若者の地域定着に必要な要素やベンチマークを探索し、最終的に得られた成果を大学や地域の施策・企画に活用することである。これまでの調査・分析により、大学が目指す人材育成に基づいたカリキュラムや環境作りは、学生が社会に出てからも必要とされるものであり、学生時代に培った学びが仕事に必要な能力に転移している可能性を示唆するものであった。 今年度は、これらの調査・分析結果が FD/SD 研修などの場面で利活用されるように、データハンドリングを行うことを計画している。また、本事業に関わるメンバーは引き続き大学 IR の専門性を高め、教育改善や研究活動を推進し、次世代の人材育成に貢献していくことを目指す。 ① 共同 IR 運営会議： 調査や分析などの計画やデザイン、ならびに当該事業におけるデータ管理方法・規定などを決定する。 ② データハンドリング： 本事業で得られたデータを利活用できる形にするための企画・作業を行う。

	③ 情報収集および調査： データの可視化とその提供に先立ち、これまでの調査・分析で不足している指標については、データ収集を引き続き行っていく。 ④ 人材の高度化： 本事業の発展を推し進めるため、事業に関係するメンバーがより適切な調査企画・デザイン・解析スキルを持つよう、IRに資する技能開発や研修等に適宜参加し人材の高度化を図っていく。 ⑤ 事業成果の公表： ①から④の事業を行い、データの提供や運用に関する成果を公表する。
事業計画	① 共同 IR 運営会議の開催 共同 IR の実施に向けた企画・運営を行う（必要に応じて実施）。 ② データハンドリング プラットフォーム事業に関わるメンバーが、データを活用できる形にするための運用方法や仕組みを構築する。この目標を達成するためのデータの加工や集計、分析方法も同時に探索する。 ③ 情報収集と整理・解析 本事業のコンセプトに資する解析を行う（年間を通して随時実施）。 ④ 成果報告 本事業で行ってきた成果のまとめと情報提供を行う（年 1 回程度）

【C-6-2】びわ湖東北部地域 共同 FD ・ SD 研修会 （滋賀文教・長浜バイオ・聖泉）

WG 名称	C. 地域を担う次世代人材の育成
課題	今後のびわ湖東北部地域を担う人材の確保
達成目標	・地域内の複数校が連携した共同教育事業数を 2018 年比で 20%増加。（2023 年度評価） ・びわ湖東北部地域連携協議会に参画する連携機関からの地域内における共同教育事業に参加する人数を 2019 年比で 20%以上の増加（2023 年度評価）
取組事業名	取組 6（共同 FD・SD 事業）
取組事業概要	びわ湖東北部地域の共同教育事業の確立にあたり，プラットフォーム参加校の教育の質向上を図るために，大学教職員向けの教育機会（共通 FD/SD）を設ける。
活動指標	共同 FD/SD 研修を年 1 回以上実施し，最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。
対応 SDGs 番号	4， 8
取組事業 No.	C-6-2 びわ湖東北部地域 共同 FD ・ SD 研修会
事業概要	【C-6-2-①】滋賀文教短期大学 共同 SD 研修 教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教職員を対象とした研修会を実施する。 【C-6-2-②】滋賀文教短期大学 共同 FD 研修 教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教員を対象とした研修会を実施する。 【C-6-2-③】長浜バイオ大学 共同 FD 研修 教育の質向上を図るため、プラットフォーム参加校の教職員を対象とした研修会を実施する。 【C-6-2-④】聖泉大学 共同 SD 研修 現在、離職者や退職者が年々増加しており、業務に対して必要な人員の確保ができずに人員不足に陥り、一人の仕事量の負担が増え、ストレスを抱えている現状がある。そこで、働く人たちの心理的支援としてメンタルヘルスの不調を改善し、不調を未然に予防し、生き生きと働くための心理学を学ぶ場を提供する。 【C-6-2-⑤】聖泉大学 共同 FD 研修 現在、学生サポートが必要な学生が多く、様々な理由で支援を求めています。本研修会では、障がいのある学生にスポットをあて、他の学生と

	同じように学ぶためには、いろいろな点で支援や配慮が必要になるため、合理的配慮に必要な知識を学ぶ場を提供する。
事業計画	【C-6-2-①】滋賀文教短期大学 SD 研修 演 題：検討中 講 師：滋賀文教短期大学教員（予定） 日 時：2024 年 9 月（予定） 方 法：未定 ※滋賀文教短期大学 SD 委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。 【C-6-2-②】滋賀文教短期大学 FD 研修 演 題：検討中 日 時：2024 年 9 月（予定） 方 法：未定 ※滋賀文教短期大学 FD 委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。 【C-6-2-③】長浜バイオ大学 共同 FD 研修 演 題：検討中 日 時：2024 年 9 月（予定） 方 法：対面・オンライン併用のハイブリッド形式を予定。 ※長浜バイオ大学 FD 委員会において、事業計画（講師、日程等）を決定する。 【C-6-2-④】聖泉大学 共同 SD 研修 11 月：日程・講師選定 12 月：広報・受講者募集・受付 1 月：合同研修会 実施 2 月：実施後のアンケート集約 3 月：振り返り 【C-6-2-⑤】聖泉大学 共同 FD 研修 11 月：日程・講師選定 12 月：広報・受講者募集・受付 2 月：合同研修会 実施 2 月：実施後のアンケート集約 3 月：振り返り

WG名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-1 広報活動
事業概要	昨年度までは PF の周知拡大のために計画的・戦略的なメディアへの情報発信を主軸に広報活動を展開してきた。HP へのアクセス数、問合せ数からも一定の効果があったと考えている。2024 年度はびわ湖東北部地域連携プラットフォーム（PF）事業が最終年度となり、この間 PF がどのように地域に貢献してきたか発信する必要があると考え、以下の広報活動を実施する。 ①地元情報誌への本協議会事業の掲載 地元情報誌（ぼてじゃこ、KONKI クラブ等を検討中）にて本協議会の事業成果を取材、掲載する。 ②HP を利用した情報発信 活動実績・トピックが伝わるような改修を施す。 ③販促物の作成 連携機関の在庫数に応じた本 PF 事業紹介リーフレット、クリアファイル、封筒等の発行を行う。
事業計画	①9 月実施予定の成果発表会まで、もしくは 3 月実施の成果報告会・外部評価委員会までの掲載を目指す。 ②6 月末より各 WG ならびに業者との検討を開始する。 ③在庫状況を確認し適宜発行を行う。

WG名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-2 2023 年度成果発表会
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業及びその成果を広く知ってもらい、さらに地域の活性化を促すために、地域一般住民に向けた成果発表会を開催する。
事業計画	2023 年度成果発表会（一般向け）を下記日程で開催する。 日程：2024 年 9 月下旬 内容：2023 年度取組事業の成果発表を中心に対面形式で実施する。 6 月より、ゲストスピーカー選定に入る。 また、昨年度より会場規模を拡大し、参加者の増加に注力する。

WG名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 1（広報活動）
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-1-3 SNS を活用した情報発信
事業概要	びわ湖東北部地域連携活動の取り組み事業をより多くの人に周知すべく各 WG で計画されているイベント情報について、開催の告知と開催報告を Instagram などの SNS を新設して発信する。また、成果報告会などの特に集客を要するイベントについては、特定のターゲット層にピンポイントでリーチできる「SNS 広告」を活用し、フォロワーの獲得とイベント参加者の動員を図る。
事業計画	事業計画策定後に、各種イベントの情報集約方法などを各 WG に展開し、イベント告知方法の確立と、情報発信を行う。 OneDrive 内に各 WG 担当者がアクセスできる共有フォルダを作成し、さらにイベントごとにフォルダを作成して、記事や写真を保存する。記事投稿に関する共通のルールを策定し、投稿内容にばらつきがないように調整する。 イベント告知については、開催の 1 か月前に情報発信、イベント終了後の報告は 1 週間以内に発信することを目指す。

WG名称	D. 広報活動・ホームページ管理
取組事業名	取組 2（協議会ホームページ管理）
対応 SDGs 番号	該当なし
取組事業 No.	D-2-1 協議会ホームページ管理
事業概要	びわ湖東北部地域連携協議会の取組事業の進捗及びその成果、地域に向けたイベント情報を広く発信するために、ホームページの管理・運営を行う。
事業計画	○ホームページ(HP) の管理・運営 協議会 HP のリニューアル 2024 年度は下記の事項について協議し対応する。 ・事業実施成果の見せ方を検討する。 ・SNS との連携。イベント情報などは SNS に集約する。 ・その他、ユーザーや協議会員から寄せられた改善要望への対応